

1 事業名

体験の風をおこそう運動協賛事業 平成28年度教育事業 「タートルズ キャンプ」
～自立支援が必要な子どもたちのチャレンジタイム～

2 趣 旨

被虐待等により社会的養護が必要な子供に対し、自然体験活動や集団宿泊体験等をととしてコミュニケーション能力向上を図り、それぞれの目標に向けて、自分に自信をつける機会とする。

3 期 日

平成28年 5月19日(木)	第1回担当者会議	協力4施設と主催者との事業に関わる年間計画の確認
平成28年 6月 5日(日)	サポート事業	和光学園鞍掛山登山
平成28年 7月13日(水)	事前活動	対応事例研究会, 参加者との顔合わせ会 (和光学園)
平成28年 7月14日(木)		対応事例研究会, 参加者との顔合わせ会 (ことりさわ学園)
平成28年 7月15日(金)		対応事例研究会, 参加者との顔合わせ会 (青雲荘)
平成28年 7月18日(月)		対応事例研究会, 参加者との顔合わせ会 (みどり学園)
平成28年 8月 3日(水)～ 5日(金)	事業	「タートルズ キャンプ」
平成28年 9月25日(日)	事業	テンパークまつりステージ発表 (みどり・ことりさわ学園・和光学園)
平成28年10月 2日(日)	サポート事業	大収穫祭 (ことりさわ学園・みどり学園)
平成28年10月15日(土)～16日(日)	サポート事業	青雲祭
平成28年10月17日(月)	事後活動	事後反省会 (ことりさわ学園・みどり学園)
平成28年10月19日(水)		事後反省会 (和光学園)
平成28年10月20日(木)		事後反省会 (青雲荘)
平成28年11月予定	第2回担当者会議並びに事業成果報告会	協力4施設と主催者との事業反省会 今年度の成果確認及び次年度構想
平成29年1月予定	サポート事業	みどり学園宿泊スキー教室
平成29年1月11日(水)～12日(木)		ことりさわ学園日帰りスキー教室
平成29年1月予定		和光学園日帰りスキー教室
平成29年1月予定		青雲荘日帰りスキー教室
平成29年 2月11日(土)		学園公開 (ことりさわ学園・みどり学園)

4 参加者 小学生(男子6名, 女子4名) 10名 中学生(男子1名, 女子1名) 2名 合計 12名
内訳 ことりさわ学園 小学生2名 中学生1名 みどり学園 小学生2名 中学生1名
和光学園 小学生3名 青雲荘 小学生3名

5 連携・協力

児童養護施設みちのくみどり学園, 情緒障害児短期治療施設ことりさわ学園,
児童養護施設和光学園, 児童養護施設青雲荘
長内工房, 久慈市ふるさと体験学習協会
ユーレストジャパン(株)岩手店

6 内容

(1) 日程 平成28年 8月 3日(水)～ 5日(金)

8/3 (水)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時
					受付	開会式・OR レクリエーション①～みんな仲良しになろう～	昼食・休憩	話し合い	アドベンチャー1 秘密基地づくり ～みんなで作る～	フリータイム	レクリエーション②～みんなで作る～	夕食入浴		アドベンチャー2 陶芸体験 ～自分のオリジナル作品を作ろう～	フリータイム	Tタイム	就寝準備	就寝

8/4 (木)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時
		清掃	つどい	朝食	フリータイム	テント撤収	移動	昼食	レクリエーション③～みんな仲良しになろう～	アドベンチャー3 洞窟探検 ～自然を満喫しよう～	入浴	フリータイム		アドベンチャー4 パーティー ～みんなで作る～ 【野外炊事・ボンファイヤー】	Tタイム	就寝準備	就寝	

8/5 (金)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時
		清掃	つどい	朝食	フリータイム	アドベンチャー5 カヌー体験 ～大自然を満喫しよう～	移動	昼食	移動		Tタイム	閉会式						

(2) 指導者

・久慈市ふるさと体験学習協会職員

・長内工房

・国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	中田 春輝
・国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	佐々木真里子
・国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	中村 聡
・国立岩手山青少年交流の家	事業推進係長	田口 康宏
・国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	佐々木 翔也

(3) 企画のポイント

虐待を受けた子供が、大人への信頼を回復し一歩前に踏み出せるように、ゆとりある日程の中で大人1名に子供が1～2名程度にして、大人との関わりをとれるようなスタッフの配置をした。「アドベンチャー」をテーマに秘密基地づくり、陶芸体験、洞窟探検、カヌー体験などのチャレンジをとおして自己肯定感を高める活動と、野外炊事やソフトボールなどの交流をとおして社会性を養う活動を取り入れてプログラムを構成した。また、年間を通して各施設の登山やスポーツ大会、スキー教室等の行事のサポートを行い、子供たちとの関わりをもてるよう配慮している。

(4) 広報のポイント

参加対象者を4つの施設に入所している児童・生徒と限定したことから、公募の形ではなく各施設で参加者を4人以内で確定してもらった。参加者は様々な家庭事情を抱えているため報道機関への案内はあえて行わなかった。

(5) 運営のポイント

参加児童・生徒にタートルズキャンプへの理解を深めてもらうために、4つの施設を事業開始前に訪問し、交流の家職員から参加者に対する対応事例の説明と参加者同士の顔合わせ会を行った。顔合わせ会では、昨年度のキャンプの様子を紹介しながら、今年のキャンプの活動内容について説明することでキャンプへの意欲付けをするとともに、参加する職員を紹介しながら交流を図った。職員間でも、参加者への対応の仕方について共通理解を深めるために、参加者就寝後にスタッフミーティングを2日間行い、参加者の行動の変化や担当する班の様子について情報交換を行った。昨年度に引き続き、所外での宿泊をプログラムに取り入れ、安全面のガイドラインについて職員で共通理解をしたうえで行った。

7 成果とその普及

参加者同士で名前を早く覚えてもらいたいと考え、アイスブレイクでは、「ネームトス」や「仲間さがしゲーム」に時間をかけて行った。子供たちも互いの名前をすぐ覚えることができよかったという声が多くあり、初日から進んでコミュニケーションを取り合う姿がよく見られた。

陶芸体験では、施設ごとの座席のほうが良いと考えていたが、子供たちから他の施設の人と一緒に作りたいと申し出があり、子供たちが自由に交流しながら活動することとした。初日からみんな仲良くなっている姿をみて感動を覚えた瞬間であった。

2日目の朝、施設ごとに泊まったテントの片付けでは、競争させたわけでもないのに声をかけあって、あっという間に撤収していた。内間木キャンプ場に出発のためトラックに寝袋などを積む作業を職員が始めて間もなく、自主的に列を作り、手渡しリレーで作業を手伝ってくれ、子供たちの満足感あふれる顔が印象的であった。

野外炊事では、キャンプも中盤にさしかかるので、各施設の参加者同士が交流できる班を編成して活動した。野菜を切る作業や火起こしの仕方を下級生にやさしく教える姿が多く見られた。それぞれの班で協力して行うことができ、子供たちの自己肯定感を高める活動につながったものと考えられる。

今回は、子供たちのキャンプの変容を把握するために、参加者の感情を読み取るため「じぶんバロメーター」で自分のその日の感情を数値化し前日と比較した。「つながりマップ」では、自分の身近にいた人を記入させることでコミュニケーションの広がりを把握することができた。

今回の成果を、県立の青少年施設等に紹介し普及を図るとともに、このような子供たちを社会全体で支え支援していくという考えのもと、当施設としても事業の内容を充実させていきたい。

8 今後の課題

事前事後に自己肯定感を図るアンケートは、今年度は機構本部のアンケートで実施した。分析結果が出てから子供たちの変容把握に努め、本事業におけるプログラムの有効性について検証していきたい。来年度の活動内容については、生活自立支援キャンプ予算がなくなることを前提に、経費のかからない活動を検討しなければならない。そうなった場合においても、参加者のニーズと設定したねらいがずれないようにプログラムを構成していくと共に、子供たちが自己肯定感を高めるためのさらに一歩踏み込んだ活動を考えていきたい。



「洞窟探検」



「カヌー・カヤック体験」